

福田雅光先生講演会参加者各位

平成2年10月3日

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス会長 羽村雅俊

ご来場ありがとうございます。今日はオーディオ評論の第一人者、福田屋こと福田雅光先生の登場です。先生ならではの「手軽に音質向上が図れる極意」の一部を実践披露していただきます。貴重なひと時、ご堪能下さい。(先生のご意向に従い、予告の内容を一部変更しました。)

① グラフィックEQの機能と、意味、その効果は。

オーディオは音量や部屋、スピーカーやその他の機器など様々な要素によって周波数特性が変化する。グラフィックイコライザーがあれば、状況に合わせて心地良い音がつくりだせる。ラックスマン製EQはドライバーがあれば誰でも簡単にとりつけられる。各周波数±8dBで可変可能。イコライザ-のオンオフスイッチがあるので、即座に効果を聴き比べることができる。



② 現スピーカーシステムに並列加算して使う「ブースター」の効果

CDアルバムは普通、スピーカーシステムの構造から水平面2チャンネル構成された音を聴く。しかし、東京カテドラル聖マリア大聖堂の天井から降ってくる間接音成分を表現しているのだろうか？という疑問がでてきた。試しにブースタースピーカーをメインスピーカーの上部に45度の角度で取り付けてみた。結果、高さ方向での空間への展開が広がり、音楽の表情が豊になった。



③ 直径、わずか6cmの、特選スピーカーユニット

一般的に小口径になると低音が出にくくなることを改善し、驚くことに低域再生限界の目安となるfo(最低共振周波数)は6cmながら100Hz以下を誇る。小口径の有利さを生かした高域の伸びも合わせ持つワイドレンジ設計。音圧特性や諸特性も小さなエンクロージャーに対応するものになっている。駆動力も強力。「入力信号に正確に追従するドライバー」である。



○再生CD(予定)

チャイコフスキー: 交響曲第4番(ホーネック・ピッツバーグ響)

プリアール〜モルダウ(ハーブ・山宮るり子)

J.S.バッハ: 無伴奏ヴィオラダ・ガンバの為の組曲(宇田川貞夫)

●福田雅光先生

小学高学年から電子回路に興味を持つ。電子工学系の大学卒業

共同通信社入社。1985年オーディオ評論家として独立。

ピュアオーディオ主体に高純度、リアルサウンドを追求。オーディオアクセサリ誌上で「福田屋」を名乗り、業界をリードしている。

